

# 令和5年熊本市子どもの生活に関する実態調査（調査結果のポイント）

令和6年7月30日  
熊本市子ども家庭福祉課

## 1 調査概要

### （1）調査目的

- ・ 本県では、「子どもの貧困対策推進法」に基づき、子どもの貧困対策計画を令和2年3月に策定し、①教育支援、②生活支援、③保護者に対する就労支援、④経済的支援を4つの柱として、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、子どもの貧困対策に取り組んでいる。
- ・ このため、県計画の実効性を高めるとともに市町村による取組みを支援するため、全市町村域における子どもの生活実態を把握するための調査を実施した。
- ・ なお、今回の調査では、本県が前回（平成29年）実施した「熊本市子どもの生活に関する実態調査」の調査内容を一部見直し（\*）、世界的に猛威をふるった、新型コロナウイルスの蔓延などの非常事態が、子どもの生活にどのような変化をもたらしたのか等の分析を新たに行った。

\*より詳細な県内の子どもの生活実態を把握するため、調査対象者に熊本市在住者を追加し、内閣府が作成した「令和3年子供の生活状況調査分析報告書」を参考に設問を追加するなど、見直しを行った。

### （2）調査対象者

県内の公立小学校5年生の子ども及び保護者（全数）

県内の公立中学校2年生の子ども及び保護者（全数）

### （3）調査内容

資料編の調査票のとおり

### （4）調査方法

- ・ 調査票（WEB アンケート）の回答用 QR コードが記載された依頼文を市町村を通じ各学校に配付し、各学校から調査対象者に配付。
- ・ 調査対象者は、学校や家庭等で WEB アンケートに回答を入力。

### （5）調査期間

令和5年8月25日（金）～令和5年10月14日（土）

### （6）回答状況

|              |     | 対象者数   | 回答数    | 回答率   |
|--------------|-----|--------|--------|-------|
| 小学校5年生       | 保護者 | 15,843 | 6,705  | 42.3% |
|              | 子ども | 15,843 | 6,819  | 43.0% |
|              | 計   | 31,686 | 13,524 | 42.7% |
| 中学校2年生       | 保護者 | 15,613 | 5,463  | 35.0% |
|              | 子ども | 15,613 | 7,963  | 51.0% |
|              | 計   | 31,226 | 13,426 | 43.0% |
| 不明<br>(回答なし) | 保護者 |        | 19     |       |
|              | 子ども |        | 22     |       |
|              | 計   |        | 41     |       |
| 全 体          | 保護者 | 31,456 | 12,187 | 38.7% |
|              | 子ども | 31,456 | 14,804 | 47.1% |
|              | 計   | 62,912 | 26,991 | 42.9% |

## (7) 調査結果の概要

- ① 全国の子どもの貧困率を算出している令和3年子供の生活状況調査分析報告書を参考に本調査における相対的貧困率\*を算出した結果、貧困線を下回る者（Ⅰ層）の割合は13.3%、ひとり親世帯では40.9%であった。

【参考】令和3年子供の生活状況調査分析報告書（内閣府）

全国の子どもの相対的貧困率：12.9%、大人が一人の世帯：50.2%

\* 内閣府の調査報告書の手法を参考に、令和4年の世帯全員のおおその年間収入の回答から、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」（世帯収入の回答選択肢の中央値をとり、同居家族の人数の平方根をとったもので除す）を算出。等価世帯収入の「中央値の2分の1」の額を貧困線とし、同線を下回る層をⅠ層（それ以外をⅡ層）として分類。全体におけるⅠ層の割合を相対的貧困率としている。※詳細はP9参照

- ② Ⅰ層とⅡ層（Ⅰ層以外の回答者）との比較において、世帯の経済状況と子どもの生活環境（生活習慣等）、社会環境（自己実現の意識、現在の悩み等）との関係性について顕著な差は見られなかったが、Ⅰ層では不規則な生活習慣や、自己実現の意識が低い等の傾向が見られた。

一方で、世帯の経済状況と子どもの教育環境（進学希望等）との関係については、Ⅰ層とⅡ層で顕著な差が見られており、Ⅰ層では、将来の進学に関する意欲等において、Ⅱ層よりも多くの課題を抱えている状況がうかがわれる。

※（保）…保護者回答、（子）…子ども回答

（世帯の経済状況と子どもの生活環境との関係（経済状況別））

|      | 調査結果                               | Ⅰ層              | Ⅱ層              | 差    |
|------|------------------------------------|-----------------|-----------------|------|
| 生活環境 | 朝食の摂取頻度<br>（「ほぼ毎日」）                | 83.3%（子）        | <u>90.5%（子）</u> | △7.2 |
|      | 睡眠習慣<br>（「あまり同じ時刻ではない」と「毎日異なる」の合計） | <u>22.5%（子）</u> | 18.4%（子）        | 4.1  |

（世帯の経済状況と子どもの社会環境との関係（経済状況別））

|      | 調査結果                                                                   | Ⅰ層       | Ⅱ層              | 差    |
|------|------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------|------|
| 社会環境 | 将来のためにも、今、スポーツや特技を<br>頑張りたいと思うか（自己実現の意識）<br>（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計） | 74.8%（子） | <u>79.8%（子）</u> | △5.0 |
|      | 悩みごとや相談したいこと<br>（「ない」）                                                 | 64.6%（子） | <u>67.1%（子）</u> | △2.5 |

（世帯の経済状況と子どもの教育環境との関係（経済状況別））

|      | 調査結果                                  | Ⅰ層              | Ⅱ層              | 差     |
|------|---------------------------------------|-----------------|-----------------|-------|
| 教育環境 | 子どもに希望する進学先<br>（「大学まで」）               | 31.4%（保）        | <u>57.7%（保）</u> | △26.3 |
|      | どの学校まで進学したいか<br>（「大学まで」）              | 24.0%（子）        | <u>41.7%（子）</u> | △17.7 |
|      | 子どもの進学が希望どおりにならないと思う<br>理由（経済的な余裕がない） | <u>35.2%（保）</u> | 20.4%（保）        | 14.8  |

※ 保護者が考える子どもの進学の実現可能性及びその理由のデータについては、P12参照

③ 子どもの自己実現の意識（＝将来のためにも、今、スポーツや特技を頑張りたいと思うか）は、生活環境、教育環境と関係性がある。

I 層で子どもの自己実現の意識が低い傾向が見られたが、経済状況に限らず、子どもとの会話の頻度など保護者の関わりが大きいほど、子どもの自己実現の意識が高い傾向にあり、子どもの自己実現の意識が高ければ、生活環境（規則正しい生活習慣）や教育環境（勉強時間、学校の楽しさ）に良い影響があることが読み取れた。

（子どもの自己実現の意識と生活環境との関係（全世帯））

|      | 調査結果                                    | 自己実現意識高い        | 自己実現意識低い        | 差    |
|------|-----------------------------------------|-----------------|-----------------|------|
| 生活環境 | 朝食の摂取頻度<br>（「ほぼ毎日」）                     | <u>88.5%（子）</u> | 80.0%（子）        | 8.5  |
|      | 平日の睡眠習慣<br>（「あまり同じ時刻に寝ていない」と「毎日異なる」の合計） | 20.0%（子）        | <u>26.9%（子）</u> | △6.9 |

※ 「将来のためにも、今、スポーツや特技を頑張りたいと思うか」との問いに対し、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答者を『自己実現意識高い』に分類し、それ以外の回答者を『自己実現意識低い』に分類（以下、同じ）

（子どもの自己実現の意識と教育環境との関係（全世帯））

|      | 調査結果                         | 自己実現意識高い        | 自己実現意識低い        | 差    |
|------|------------------------------|-----------------|-----------------|------|
| 教育環境 | 平日の学校以外での勉強時間<br>（「ほとんどしない」） | 9.4%（子）         | <u>17.3%（子）</u> | △7.9 |
|      | 学校は楽しいと思うか<br>（「すごく楽しい」）     | <u>46.4%（子）</u> | 27.0%（子）        | 19.4 |

（保護者との会話の頻度と子どもの自己実現の意識の関係（全世帯））※構成比

|       | 調査結果         | 自己実現意識高い        | 自己実現意識低い        | 計    |
|-------|--------------|-----------------|-----------------|------|
| 会話の頻度 | 「ほとんど毎日話をする」 | <u>83.4%（子）</u> | 16.6%（子）        | 100% |
|       | 「たまに話をする」    | <u>78.8%（子）</u> | 21.2%（子）        | 100% |
|       | 「あまり話をしない」   | 71.5%（子）        | <u>28.5%（子）</u> | 100% |
|       | 「全く話をしない」    | 64.9%（子）        | <u>35.1%（子）</u> | 100% |

（保護者と一緒に朝食を食べる頻度と子どもの自己実現の意識の関係（全世帯））※構成比

|          | 調査結果               | 自己実現意識高い        | 自己実現意識低い        | 計    |
|----------|--------------------|-----------------|-----------------|------|
| 一緒に食べる頻度 | 「ほぼ毎日、週4～5日一緒に食べる」 | <u>82.0%（子）</u> | 18.0%（子）        | 100% |
|          | 「週に1～3日一緒に食べる」     | <u>78.7%（子）</u> | 21.3%（子）        | 100% |
|          | 「ほとんど一緒に食べない、無回答」  | 72.4%（子）        | <u>27.6%（子）</u> | 100% |

④ I 層の保護者では、「うつ・不安障害相当」の精神状態が多く、相談相手もない（P10, 11 参照）傾向が見られた。

また、新型コロナウイルス感染症の影響として、I 層の保護者では、コロナ禍前と比べて、収入の悪化など世帯の経済状況の変化や心理面の影響が見られ、I 層の子どもでは、特に学校の授業への理解度に影響が見られた。

（保護者の精神状態「うつ・不安障害相当」（経済状況別））※詳細は P10 参照

|      | 調査結果                       | I 層             | II 層    | 差    |
|------|----------------------------|-----------------|---------|------|
| 精神状態 | うつ・不安障害が相当（K6 スコアが 13 点以上） | <u>13.5%（保）</u> | 6.2%（保） | 7.3% |

（新型コロナウイルス感染症の影響について（経済状況別））

|          | 調査結果                                | I 層             | II 層     | 差    |
|----------|-------------------------------------|-----------------|----------|------|
| 新型コロナの影響 | 世帯全体の収入の変化（減った）                     | <u>42.2%（保）</u> | 18.6%（保） | 23.6 |
|          | 保護者自身がイライラや不安を感じたり、<br>気分が沈むこと（増えた） | <u>36.3%（保）</u> | 25.9%（保） | 10.4 |
|          | 学校の授業でわからないと感じること（増えた）              | <u>28.7%（子）</u> | 20.0%（子） | 8.7  |

## (8) 調査結果の分析

### 【世帯の経済状態】

- ・ 本県の子どもの相対的貧困率は13.3%であり、全国の12.9%と概ね同水準であった。また、前回調査と比較すると、相対的貧困率は1.7%減少していた。
- ・ しかし、現在の暮らしが「大変苦しい」「苦しい」と答えたのは、全体で26.7%に上り、相対的貧困率を上回る世帯が生活困窮を感じていた。
- ・ 特に、Ⅰ層の世帯において、経済的な理由により「食費を切りつめた」が48.6%、「医療機関を受診できなかった」が6.0%、「電気・ガス・水道などが止まった」が4.3%あり、子どもが希望したにも関わらず「必要な服や靴を買えなかった」が19.4%、「習い事に通えなかった」が19.8%、「学習塾に通えなかった」が16.5%あった。
- ・ 保護者の就労状況では、父が「非正規社員」又は「働いていない」割合はⅠ層で7.2%、Ⅱ層で1.9%、母の同割合はⅠ層で56.9%、Ⅱ層で51.7%であり、保護者の就労状況が世帯の経済状態に与える影響は大きい。

- ・ このことから、子どもが適切な養育及び教育並びに医療を受けられ、多様な体験の機会を得られるためには、世帯の所得向上が不可欠であり、保護者に対する就労支援や各種サービスへの繋ぎ、世帯に対する経済的支援が重要と考えられる。

→ (9) 今後の取組みの方向性について ①、⑥

### 【社会環境】

- ・ 保護者の精神状態では、うつ・不安障害相当を示すスコアの割合がⅠ層で13.5%、Ⅱ層で6.2%であり、差が見られた。
- ・ 子ども自身が、「将来のためにも、今、スポーツや特技を頑張りたいか」(＝自己実現の意識)との問いに、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、Ⅰ層で74.8%、Ⅱ層で79.8%であり、Ⅰ層のほうが低い傾向にあった。
- ・ 悩みや心配が「ない」と答えた子どもの割合は全体で66.8%であり、次いで「進路のこと」が15.0%、「学校の勉強のこと」が13.3%であった。(複数回答。) また、悩みを相談できる人が「欲しいが、いない」と答えた割合は3.4%であった。

- ・ このことから、保護者の心理面のフォローを行うとともに、子どもが将来に希望を持って、悩みや心配を気軽に相談できるよう、保護者をはじめとした周囲の大人が子どもに関わる機会を増やす取組みが必要と考えられる。

→ (9) 今後の取組みの方向性について ⑤、⑥

### 【生活環境】

- ・ 世帯の経済状態(Ⅰ層、Ⅱ層)を問わず、保護者の関わり(会話や朝食と一緒に食べる頻度等)が多い子どもほど、自己実現の意識が高い傾向にあった。また、自己実現の意識が高い子どもほど、生活習慣(朝食を食べる頻度や睡眠)が規則的な傾向にあった。
- ・ Ⅰ層とⅡ層の比較では、保護者の関わりや子どもの生活習慣の面で顕著な差は見られないが、Ⅰ層のほうがやや関わりが低く、習慣も不規則であった。
- ・ Ⅰ層において、子ども自身が必要と思うが持っていないものに、「勉強する場所」と答えた割合が24.4%であり、Ⅱ層の13.8%と比べて顕著に高かった。



- ・ 世帯の経済状態を問わず、勉強を無料でみてくれる場所を「利用したことがある」子どもの割合が4.1%であるのに対し、「あれば利用したい」が18.5%であった。子ども食堂についても、「利用したことがある」の7.8%に対し、「あれば利用したい」は15.0%であった。

- ・ このことから、保護者の関わりが子どもの自己実現の意識や生活習慣の向上に重要であること、無料の学習教室や子ども食堂に対する潜在的な需要が高いことがうかがえるため、保護者の子どもと過ごす時間の確保や、子どもの学習機会の確保、子どもが安心して過ごせる居場所づくりが必要と考えられる。

→（９）今後の取組みの方向性について ②、③、④

#### 【教育環境】

- ・ 世帯の経済状態を問わず、自己実現の意識が高い子どもほど「学校が楽しい」、と答える割合が高く、学習意欲や進学意欲が高い傾向にあった。
- ・ I層とII層の比較では、子ども自身がどの学校まで進学したいかの問いに対し、「高校」と答えた割合がI層で31.9%、II層で18.1%、「大学」と答えた割合はI層で24.0%、II層で41.7%であり、顕著な差が見られた
- ・ 保護者が子どもに希望する進学先を「高校」と答えた割合がI層で36.5%、II層で15.7%、「大学」と答えた割合はI層で31.4%、II層で57.7%であり、顕著な差が見られた。
- ・ 子どもの進学が「希望どおりになると思わない」又は「分からない」と答えた世帯は全体で46.6%であり、希望どおりになると思わない理由として「経済的な理由」を挙げた割合は、I層で35.2%、II層で20.4%であった。

- ・ このことから、I層において、経済的な事情で進学をためらう世帯が少なくないと考えられるため、学習機会の確保や奨学金の活用等、子どもが経済的な理由で希望する進路を諦めることがないような取組みが必要と考えられる。

→（９）今後の取組みの方向性について ③

#### 【新型コロナウイルスによる影響】

- ・ 「収入が減った」世帯はI層で42.2%、II層で18.6%、「支出が増えた」世帯はI層で72.5%、II層で66.9%であり、特にI層において、収入が減る一方で支出が増えたことが推察される。
- ・ 保護者がイライラや不安を感じるものが「増えた」割合は、I層で36.3%、II層で25.9%であり、顕著な差が見られた。
- ・ 子どもが学校の授業でわからないと感じることが「増えた」割合は、I層で28.7%、II層で20.0%であり、差が見られた。
- ・ 子ども全体では、イライラや不安を感じるものが「増えた」割合は23.0%で、「減った」の11.3%を大きく上回った。

- ・ このことから、新型コロナウイルスによる影響は、経済的・精神的にもI層の保護者に大きかったと推察され、非常事態における低所得世帯への支援の必要性が改めて浮かび上がった。また、子どもにも、学習面や精神面での変化が出ていることがわかったため、子どもに対するきめ細かな支援も必要と考えられる。

→（９）今後の取組みの方向性について ⑤

(9) 今後の取組みの方向性について

① 保護者への就労支援、経済的支援及び各種制度の周知強化

世帯の経済状況と子どもの生活環境、教育環境、社会環境に一定の関係性が見られることから、子どもの貧困対策としては、世帯の所得向上が不可欠であり、保護者に対する就労支援や経済的支援など、各種支援制度の周知強化等に取り組み、世帯の経済的自立を図っていく必要がある。

② 保護者と子どもの関わりへの支援

保護者の子どもへの関わりが、子どもの生活環境や教育環境等に良い影響を与えることから、保護者がこれまで以上に子どもと関わる時間を持てるよう、企業や地域社会等の理解・協力を得ながら、保護者のワークライフバランスの向上や子育て支援等の取組みを進めていく。

③ 子どもの学習機会の確保・充実への支援

保護者の経済状況が、子どもの学習意欲や学習習慣に影響を与えていることから、貧困の連鎖を防止し、子どもが将来への希望を持つことができるよう、教育と福祉の連携を更に深め、引き続き学習機会や学習場所の確保・充実等の教育支援の取組みを進める必要がある。

④ 子どもの安全・安心な居場所づくりによる支援

保護者の子どもへの関わりは、子どもの生活等において重要な要素であるが、家庭の事情等により関わりが希薄になる場合もあるため、民間団体、地域住民等と連携しながら、こども食堂や学習支援の場等、子どもが保護者以外の大人とも気軽に関わることのできる安全・安心な居場所づくりを進めていく必要がある。

⑤ 保護者と子どもの孤立防止と非常事態時における支援

保護者と子どもそれぞれが、社会から孤立することなく、悩みや不安を気軽に相談できる体制づくりを進めるとともに、特に新型コロナウイルスの蔓延などの非常事態時には、経済的な困難を抱える世帯がより一層厳しい環境におかれることから、世帯に対する経済的支援や精神的支援に重点的に取り組む必要がある。

⑥ 関係機関の更なる連携

子どもの抱える問題は、世帯の抱える問題との関連が深く、社会全体で支援に取り組む必要がある。今後更に、行政、学校、民間団体、地域住民等、子どもに関わる様々な機関・団体等が連携し、きめ細かな支援を行うことで、子どもが将来に夢や希望を抱けるよう取組みを推進する必要がある。

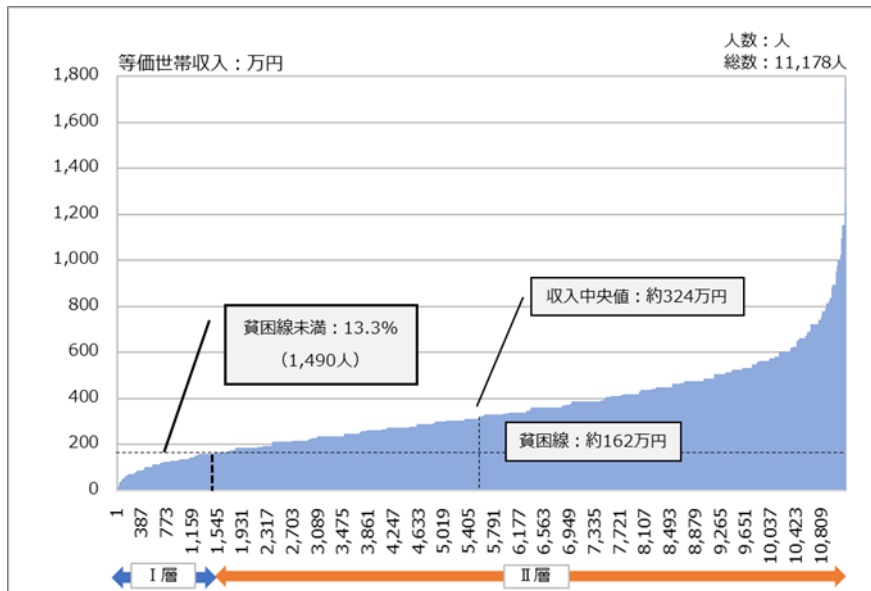




## 2 調査結果のポイント：世帯の経済状況と子どもの生活環境等との関係性

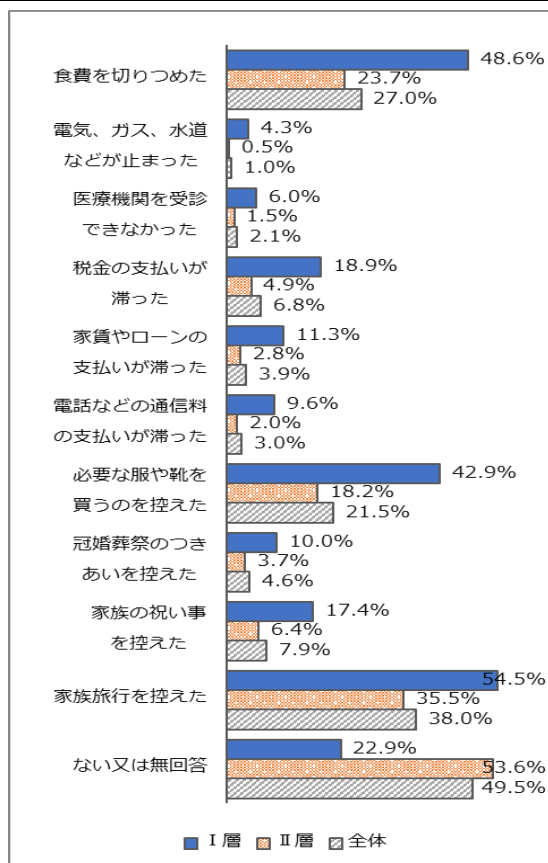
### (1) 経済状況

- 内閣府の令和3年子供の生活状況調査分析報告書の手法を参考に、本調査の相対的貧困率を算出し、貧困線を下回る層に属する回答者をⅠ層、それ以外の回答者をⅡ層と区分のうえ、集計・分析を行った結果、全体におけるⅠ層の割合は13.3%（前回H29年：15.0%）、ひとり親世帯におけるⅠ層の割合は40.9%（同：43.8%）であった。
- 参考として、内閣府の同報告書における貧困線を下回る層（本調査ではⅠ層）の割合は12.9%であり、ひとり親世帯における同割合は50.2%となっている。

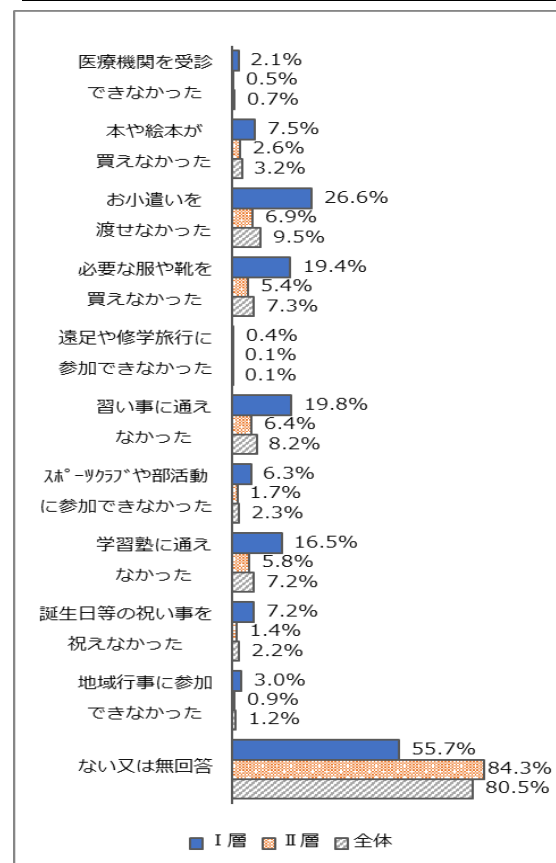


- Ⅰ層において、世帯の経済状況が、生活の基盤である衣食住や健康を守るための医療、子どもの生活環境や教育環境にも大きな影響を与えている

#### ■世帯での経済的理由による経験（保護者回答）



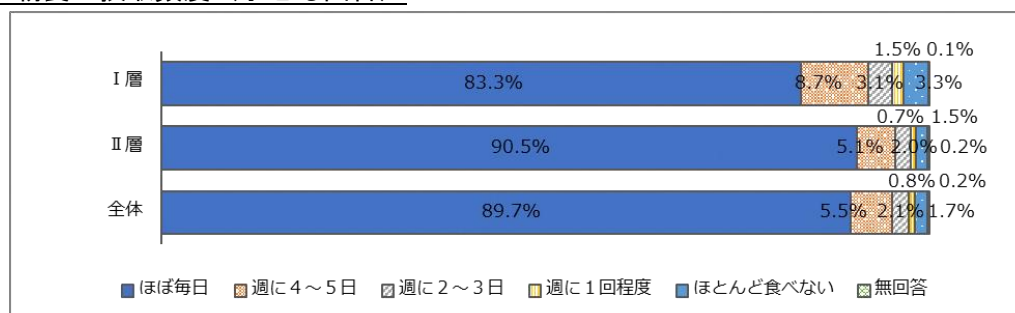
#### ■経済的理由による子どもの経験（保護者回答）



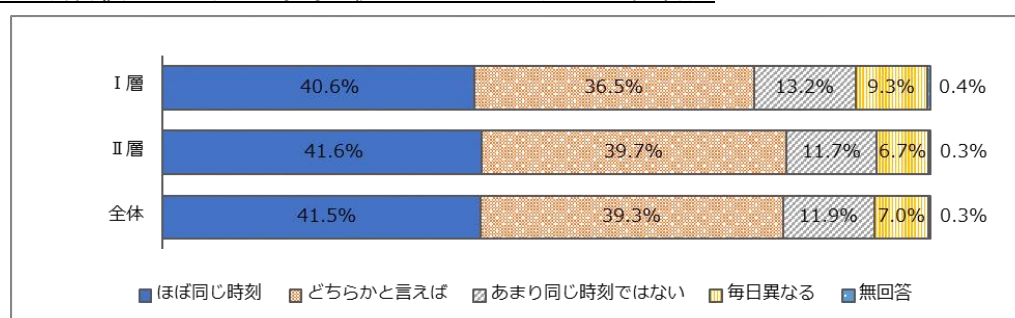
## (2) 生活環境

- ・ I 層とⅡ層で顕著な差は見られなかったが、I 層の子どもにおいて、規則的な食事や睡眠の習慣が身に付いていない傾向が見られる。

### ■朝食の摂取頻度（子ども回答）



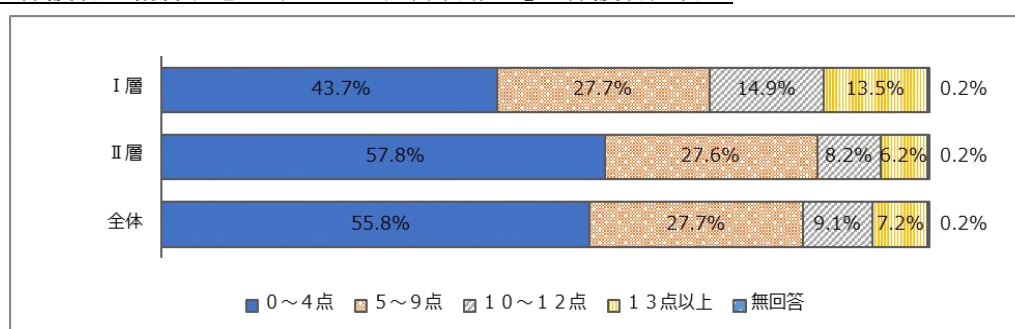
### ■睡眠習慣～平日同じ時刻に寝ているか～（子ども回答）



## (3) 社会環境

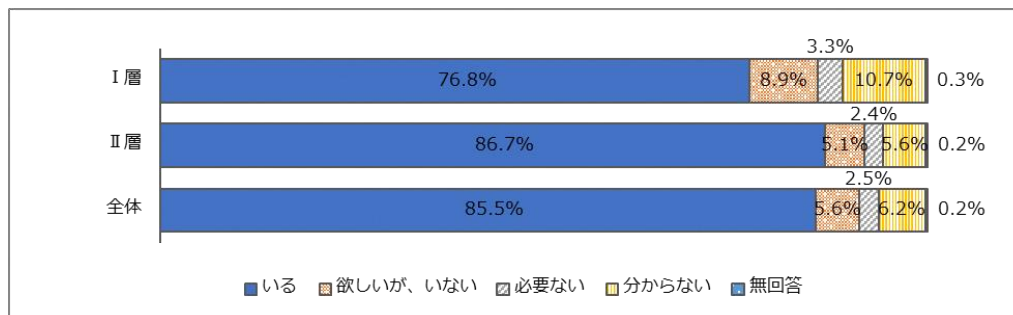
- ・ I 層の保護者において、K6 スコア\*で「13 点以上」の割合が 13.5%と高く、「うつ・不安障害相当」の精神状態が多い傾向が見られ、相談相手もない傾向があった。
- ・ また、I 層の子どもにおいて、将来のためにスポーツや特技等を頑張りたいと思う（＝自己実現意識のある）割合が低く（I 層：74.8%、Ⅱ層 79.8%）、学校の勉強に関する悩みを抱えている傾向が見られる。

### ■保護者の精神状態「うつ・不安障害相当」（保護者回答）

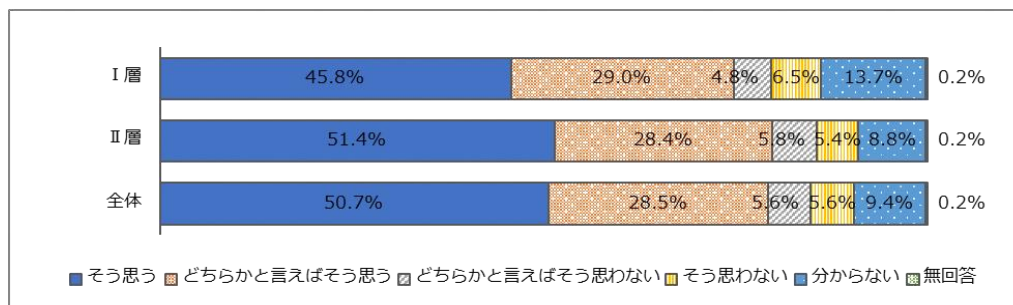


\*「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目（この1か月間の気持ちが「神経過敏に感じた」、「絶望的だと感じた」等）を設定した。この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出しており（0～24点）、スコアが高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

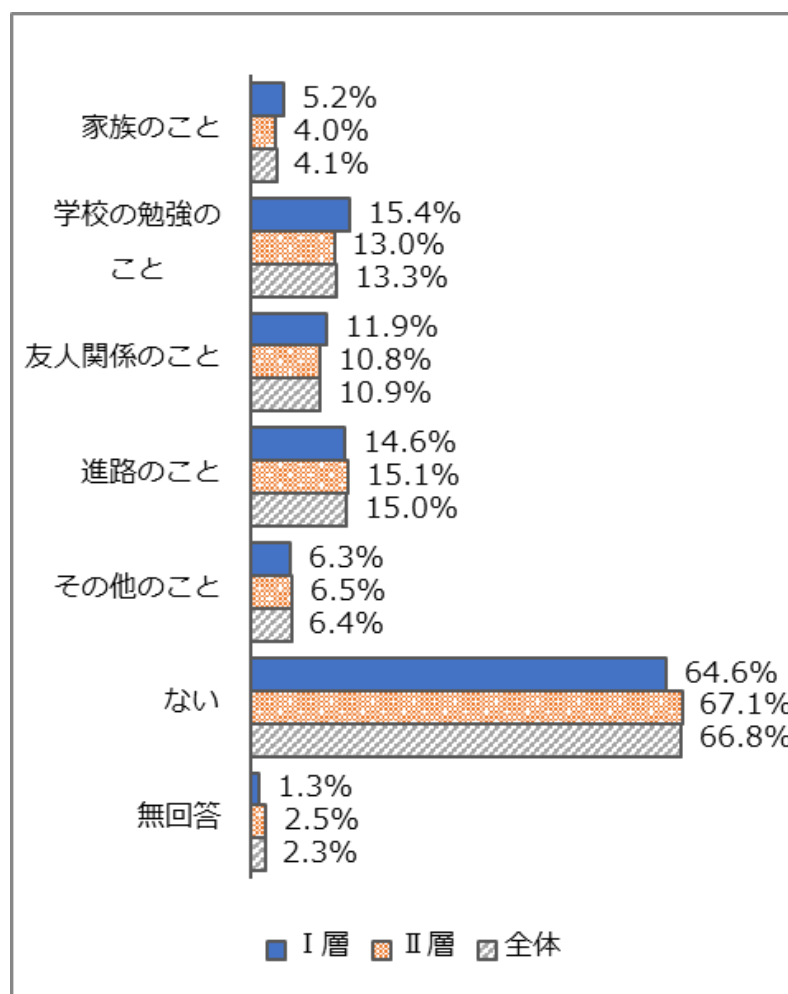
■保護者の悩みや子育ての相談相手の有無（保護者回答）



■将来のためにも、今、スポーツや特技を頑張りたいと思うか（子ども回答）



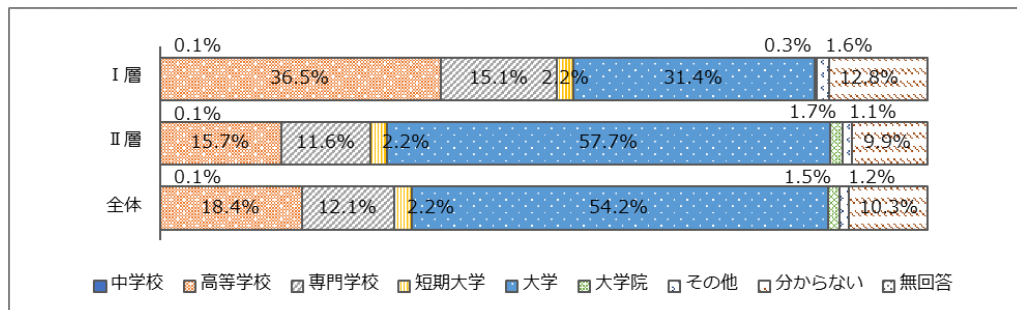
■今なやんでいることや心配なこと、困っていることやだれかに相談したいこと（子ども回答）



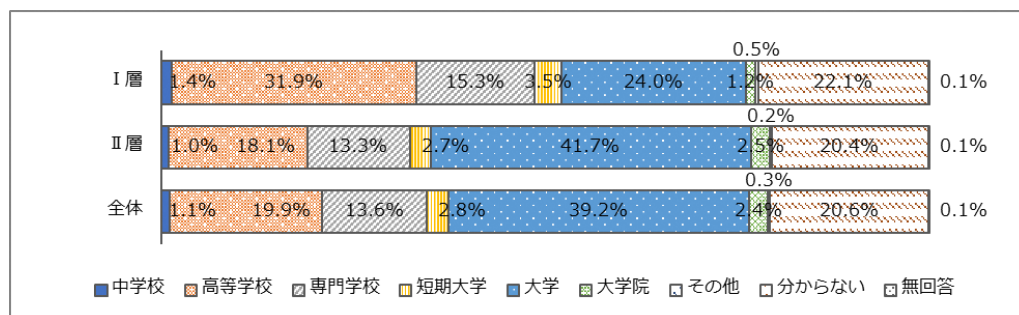
#### (4) 教育環境

- ・ 子どもの希望する進学先について、親子共に、Ⅰ層は「高等学校まで」、Ⅱ層は「大学まで」を回答する割合が高かった。また、進学の実現可能性もⅠ層で低く、その理由として経済的負担を挙げる割合が高かった。

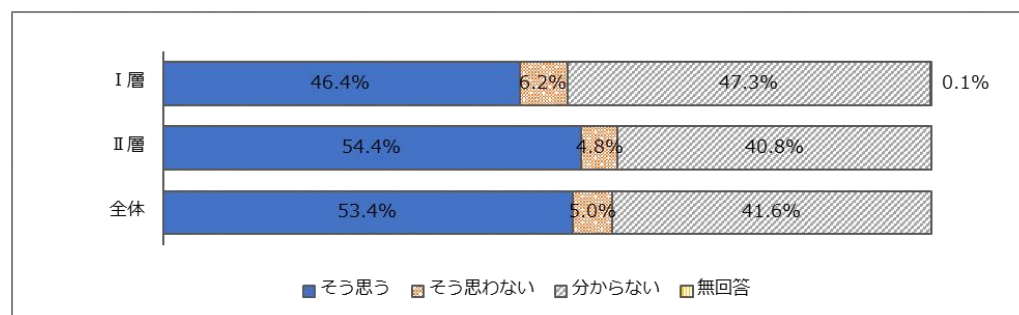
##### ■子どもをどの学校まで進学させたいか（保護者回答）



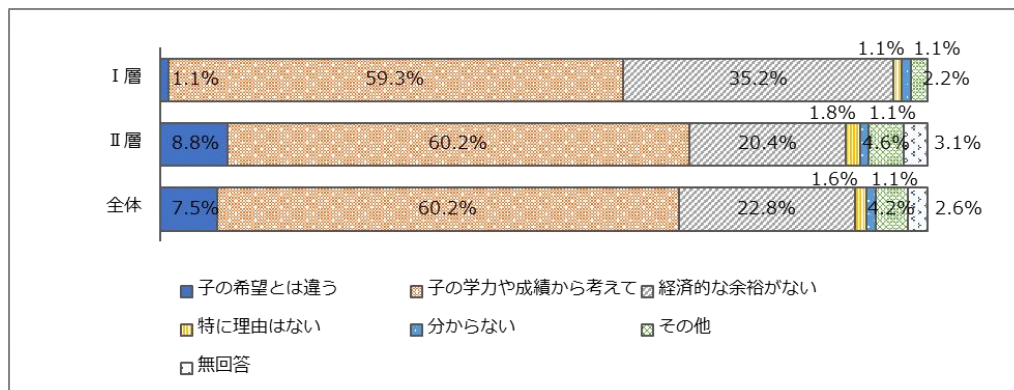
##### ■どの学校まで進学したいか（子ども回答）



##### ■子どもの進学が希望どおりになると思うか（保護者回答）



##### ■子どもの進学が希望どおりにならないと思う理由（保護者回答）

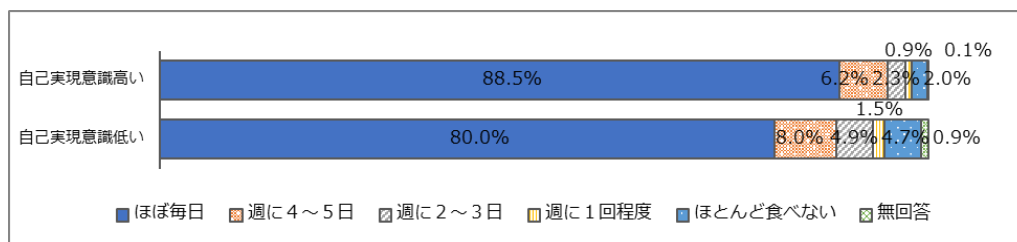


### 3 調査結果のポイント③：子どもの自己実現の意識の重要性と保護者の関わり

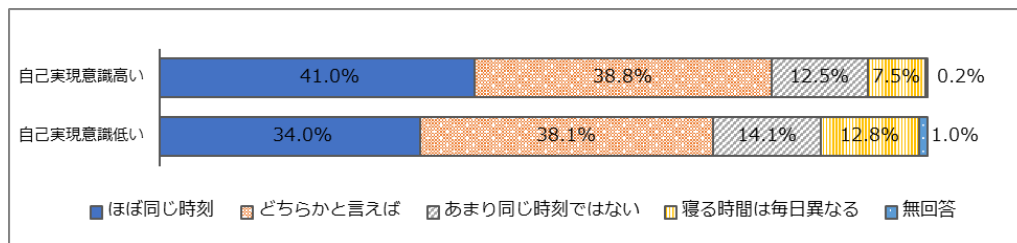
#### (1) 子どもの自己実現の意識と生活環境の関係性

- ・ 「将来のためにも、今、スポーツや特技を頑張りたいと思うか」について、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合計した層を『自己実現意識が高い』層とし、それ以外の回答を合計した層を『自己実現意識が低い』層として分類した。(以下、同じ)
- ・ 全世帯における子どものうち自己実現の意識が高い層ほど規則的な生活習慣が身に付いている傾向が見られた。

#### ■朝食を食べる頻度（子ども回答（全世帯））



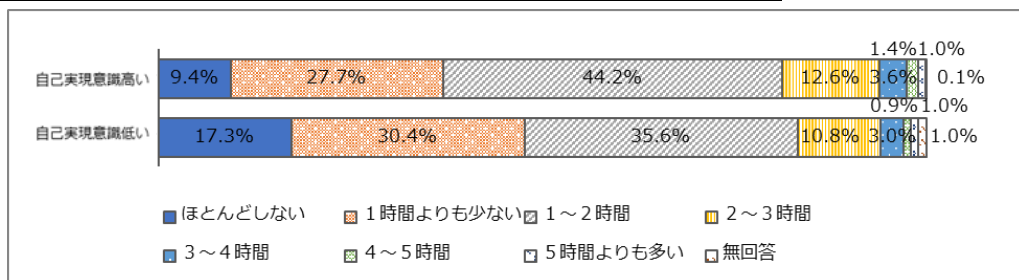
#### ■睡眠習慣～平日に同じ時刻に寝ているか～（子ども回答（全世帯））



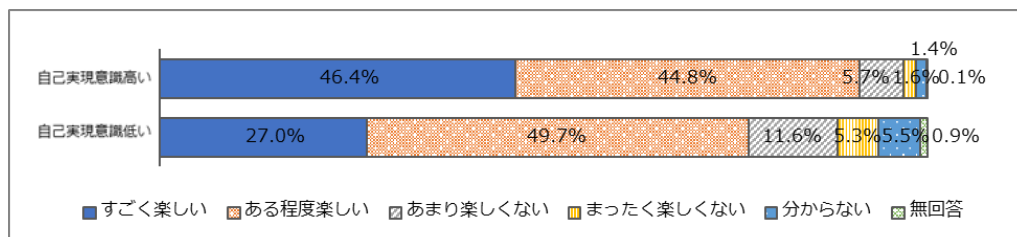
#### (2) 子どもの自己実現の意識と教育環境の関係性

- ・ 全世帯における子どもの自己実現の意識が低い層は、学習時間が短く、学校が楽しいと回答する割合が低い傾向が見られた。

#### ■平日の学校以外での勉強時間の長さ（子ども回答（全世帯））



#### ■学校が楽しいと思うか（子ども回答（全世帯））

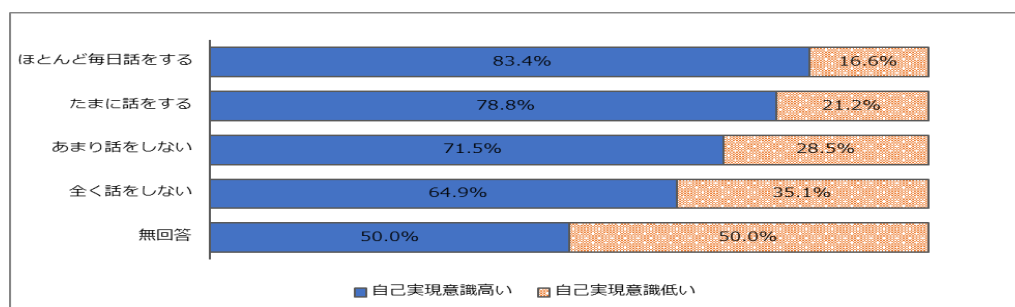




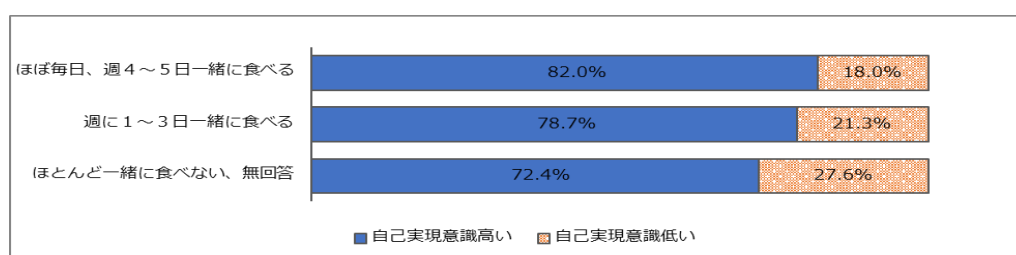
### (3) 保護者の関わりと子どもの自己実現の意識の関係性

- ・ 全世帯において、保護者との会話や保護者と一緒に朝食を食べる頻度など保護者の関わりが大きいほど、子どもの自己実現の意識が高かった。

#### ■保護者との会話の頻度と子どもの自己実現の意識の関係（全世帯）



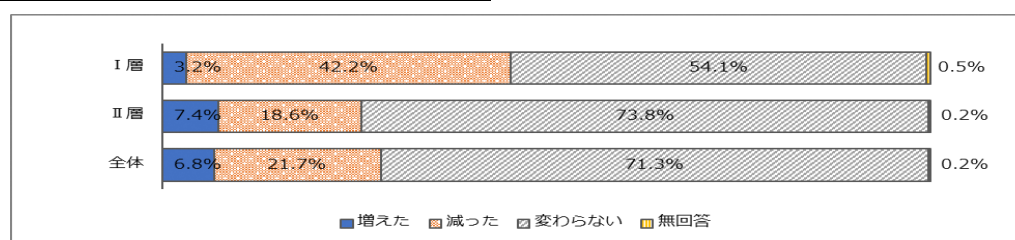
#### ■保護者と一緒に朝食を食べる頻度と子どもの自己実現の意識の関係性（全世帯）



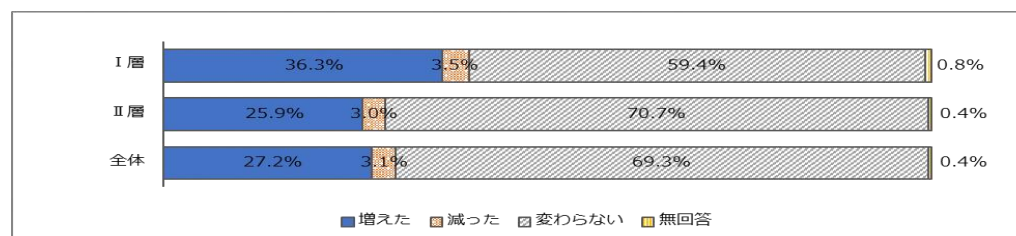
## 4 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・ I層の保護者においては、新型コロナウイルス感染症の影響による収入の悪化など世帯の経済状況の変化や心理面での影響が見られた。
- ・ I層の子どもにおいて、コロナ禍で学校が休校になる前に比べて「学校の授業でわからないと感じることが増えた」という学習面での影響が見られた。

#### ■世帯全体の収入の変化（保護者回答）



#### ■保護者自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと（保護者回答）



#### ■学校の授業でわからないと感じること（子ども回答）

